岡山畜産便り 1964.01

ジリ貧農業から7ケタ農業へ

笠岡市今井農協集団養鶏組合

◇事例紹介◇

概況と契機

○……笠岡市今井農協は岡山県の西端笠岡市の東部に位置し、東に水島、西に福山と共に将来が約束されている工業地帯の谷間に挟まれた農村にある。

○……この地区も戦後の農村ブームがさめたのちは、社会の進歩から取り残された。農協も人件費の膨張で将来の経営持続の見込みが立たなくなって来たが、ここに農協主脳部の決断により、主幹作目に養鶏と果樹を選び、新しく地域農業の構造改善と取組んで再出発することになった。そして昭和36年春、農業構造改善5カ年計画を樹てて実行に移り今日に及んでいる。

○……当地区は笠岡市の北東の山間地域であり、総経営面積640ha（水田90ha、普通60ha、果樹110ha、山林原野380ha)、農家戸数490戸（1戸平均53a、50aまで41%、100aまで51%、101a以上8%）である。1戸当り平均耕作面積僅か53a、農家収入は平均20万円であり全農家を対象としての構造改善はどうしても無理である。そこで農業にとどまる戸数を5年後に250戸と推定し、転落農家を240戸と見込んだ。がこれら転落農家は第2種兼業として残り、農地法や土地の価格上昇期待などから当然土地を手放さないという結論が出た。この様な考えから150戸を対象に最も適していると思われる養鶏を選んだのである。しかし農家合併の見通しも立たず、従って国の構造改善の指定も受けられないままに大変革を要求することの計画と取組む事は非常な困難が予想されたが、昭和36年度はテスト年度というつもりで農協役職員が6名の集団養鶏の会員と共に一丸となってこの事業に着手した。

2,000羽で100万円

○……まず規模の拡大　　テスト年度を経てみて、1,000羽飼育で施設資金を除いて40万円が余裕金として残り、2,000羽以上では100万円所得は夢でないことが解った。これに意を強め農協便り、放送等で専業養鶏農家の育成計画をPRし、最低500羽以上、上限なしの指導を行なうことにした。

○……資金　設備、雛代、飼料代等必要な資金は全て農協で融通し、鶏舎の建設も釘一本に至るまで共同購入して、規格化した軽量鉄骨鶏舎をたてた。

○……記帳と経理の確実励行　　会員と組合の浮沈をかけている養鶏事業であるから、飼料の供給の円滑を期する為と、記帳と経理の為に経営簿の宛然記帳を会員に課すことを申し合わせた。

衛生的養鶏を

○……大羽数養鶏になると環境衛生は無視出来ない問題である。その為鶏舎建設は近隣の承諾が得られた場所、組合が許可した所に限定している。昭和39年には鶏糞の共同処理場を建設する予定である。これに続き鶏糞の共同販売方法の確立、廃鶏の共同処理場の設立も急いでいるところである。

○……組合が本腰を入れ、会員が全財産を投げ出しているこの事業を円滑にするために、病気の発生は絶対防がねばならない点である。為に雛1羽当り3円の賦課金を徴して、鶏舎の徹底的消毒を強制的に実施している。

○……毎月1回以上技術交換会を設け、経営、飼育技術の講師を招いて研究している。巡廻指導は飼料購入先より毎月2回指導にくるが、農協の指導員2人が出務日数の半分以上をさいて、殆んど毎日巡廻指導に当っている。

拡大予定表

年度	昭和36年	昭和37年	昭和38年	昭和39年	昭和40年
集団養鶏会員数	6	26	68	120	150
同上一戸平均羽数	500	1,000	1,200	1,500	2,000
合計羽数	6,000	30,000	80,000	180,000	300,000
共同施設	育雛場兼モデル養鶏場建設	共同集荷場建設		鶏糞処理場建設	廃鶏処理場建設予定

岡山畜産便り 1964.01

未来へ向って

○……養鶏界は厳しく動くものである。現実をとらえ常に研究し、資金が許せば飼育羽数を増加させて、自由貿易に対処出来る養鶏事業とする。

○……会員の結束を強め、農協の運営をより充実させて、会員の利益向上を図る。これらの条件のもとに更に研究を重ねて、すばらしい専業養鶏団地が出来上ることだろう。

（次号は全国的にもめずらしい和牛の多頭飼育を御紹介いたします）